



2024年春／辰の年、特別企画

茨木のり子の詩情遺韻

茨木のり子の世界

—— 中目黒・トライ

□主催 NPO再チャレンジ東京
□共催 一般社団法人洗楓座



「寄りかからず」「自分の感受性くらい」

「怒るときと許るとき」「対話」

「握手」「歳月」…

いま、その詩文が私たちのいのちを救う。

□発行：一般社団法人 洗楓座 □編集：青柳浩生
□WEB：<http://www.kofuza.com/html/event.html> □Mail：ksato@kofuza.org
□Tel：090-1268-5882 □発行日：2024年2月17日 □売価：500円（100部限定）

序

2月17日は、現代詩の長女といわれた
茨木のり子の命日。数えて19回目。

のり子は、自身が戦時中に青春時代を過ごし、
その歳月を悔やみ、二度とそうした体験を、

次の時代の若者に負わせたくない、と、

多くの詩篇を遺しました。

その想いは、「詩情遺韻」といえます。

それを私たちは受け止めたいと思います。

のり子の詩情は、文学としての理解だけでなく、

いくつもの課題を抱えている日本と

日本人のところに沁みるものがあります。

このイベントでは、その詩情を厚く表現します。

企画 高谷秀司／佐藤建吉（青柳浩生）

2024年2月17日

次第

○日時 2024年2月17日午後6時～8時

○会場 中目黒トライ

(一) プロローグ（朝日奈拡美）

和と茨木のり子／高谷秀司

食と茨木のり子／平林朋紀

茨木のり子との愛とカタチ／佐藤建吉

(二) 茨木のり子の世界

朗読／榎木孝明

ピアノ／桜子

(三) エピローグ

See you again



#茨木のり子

茨木のり子、本姓・三浦、1926年（大正15年）6月12日、2006年（平成18年）2月17日）は、日本の詩人、エッセイスト、童話作家、脚本家。結婚前は、宮崎園子。

1953年5月に「詩学研究会」の仲間の川崎洋と同人誌「樗」を創刊。創刊号は川崎洋・茨木のり子の二人。二号から谷川俊太郎、三号から吉野弘、舟岡遊治郎、四号から水尾比呂志が参加、その後は中江俊夫、友竹辰、大岡信などの詩人が参加。

主な詩集に、『対話』『見えない配達夫』『鎮魂歌』『自分の感受性くらい』『寄りかからず』など。戦時下の女性の青春を描いた代表作の詩「わたしが一番きれいだったとき」（1958年刊行の第二詩集『見えない配達夫』収録）は、多数の国語教科書に掲載されている。

#詩情遺韻

茨木のり子の詩には惹かれる人が多い。その詩人は、生きた時代背景が強く影響しているが、状況を考現して洞察している。彼女が遺した詩情は自身の歳月の証となった。それは現代においては、状況を詩にしたのではなく詩が情景を再現し、私たちを共振させる詩情となっている。それは詩情遺韻といえる。

#一般社団法人 再チャレンジ東京

〒106-0031 東京都港区西麻布2-17-14 エス・ペランサビル1F

<http://www.jigyo-saisei.com/>

#一般社団法人 洸楓座（くふうざ）

〒105-0004 東京都港区新橋一丁目5-5 国際善隣会館4B

<http://www.kofuza.com>

#中目黒トライ

〒153-0051 東京都目黒区上目黒3-6-5 中目ビル5F

<https://www.nakamegurocity.com/>

#洸楓座の茨木のり子の行事例

2019年11月9日、江戸川区
20年10月9日、渋谷区
21年12月22日、港区
22年11月6日、軽井沢町
22年11月17日、軽井沢町
22年11月23日、千代田区
23年6月12日、北区

(一) プロローグ

☆ 講演前アナウンスほか

朝日奈拡美



#朝日奈拡美

高谷秀司門下、朗読家。NHK教育TV、元番組『ひとりでもできるもん!』初代舞ちゃんこと(七)平田実音の母。今回は影アナと相聞歌を担当。

☆ 和と茨木のり子 高谷秀司

(&MC)

万葉集を題材として茨木のり子の
和の世界を表現。

過現未に生きる我々は、

いかに人生を演じるか？

茨木のり子の詩の世界と

高谷秀司の雅楽の世界の融合・・・

詩作から『握手』を取り上げ、出会いについて、

両者の共時性、そして新たな心魂の発信、

不帰の出来事 『The truth of moment』を演出。



#高谷秀司

雅楽師・ギターリスト・教育者。音楽ロジ「サウンド・ヴィレッジ」を40年前から開設しロックミュージックを振興。茨木のり子の詩情遺韻を和琴で(ときにはギターで)、静動心魂にて朗詠演出。
再チャレンジ東京の企画室長でもあり、道徳教育を実践。大阪府出身。

著書に『雅を奏でるギター紳士』がある。高谷秀司の感性・思考は万華鏡のように変化に富み、多面的だ。そして、豪快であり、繊細でもある。雅に生きる高谷秀司の解体新書。
論文に『善隣』2023年12月号(542号)。「人間 聖徳太子 リーダーシップの神髄」―和を以て貴しと為す―がある。

握手

茨木のり子

手をさし出されて

握りかえす

しまったかな?と思う いつも

相手の顔に困惑のいろ ちらと走って

どうも強すぎるらしいのである

手をさし出されたら

女は楚々と手を与え

ただ委ねるだけが作法なのかもしれない

ああ しかし そんなことがなんじやらべえ

わたしは わたしの流儀でやります

すなわち

親愛の情ゆうぜんと溢れるときは

握力計でも握るように

ぐ ぐ ぐっと 力を籠める

痛かったって知らないのだ

ブルガリヤの詩人は大きな手でこちらの方が痛かった
老舎の手はやわらかで私の手の中で痛そうだった

#雅楽

雅楽は1200年以上の歴史を持ち、日本の古典音楽として、また世界の古典音楽として外国でも非常に高く評価されている。
日本古来の儀式音楽や舞踊などと、仏教伝来の飛鳥時代から平安時代初めにかけての400年間あまりの間に、中国大陸や朝鮮半島から伝えられた音楽や舞、そして平安時代に日本独自の様式に整えられた音楽。

奈良時代・平安時代から、雅楽の演奏は、宮廷は勿論、寺院や神社において盛んに演奏され、そして1000年以上、京都・奈良・大阪の専門の演奏家によって伝承されている。明治時代に宮内庁式部職楽部が創設され雅楽を伝承している。

謳う／舞う／囃すの三つが様式の原因として演じられる。能や歌舞伎として伝承され、発展してきた。

#万葉集

7世紀前半から8世紀中期(奈良時代末期)までの歌が収められている日本最古の和歌集。「万葉集」という名前は、万(よろず)の言の葉を集めたという説や、万世まで永らく伝えるべき歌集という説もある。

#相聞歌(そうもんか)

恋の歌。恋人同士の間で詠みかわされた歌互いに相手のようすを尋ねること。

◇ 暮らしと愛について

食と茨木のり子 平林朋紀

― いじめ防止&自殺防止の

国民運動 ―

茨木のり子は料理が得意だったそう

で、『茨木のり子の献立帖』という本

があります。暮らしには食が大事。

とくに成長期の子供には、ミネラルの摂取が大事です。現状の食品や食生活では、ミネラルが不足しています。

いじめ防止と引きこもりなどの防止対策には、食生活の改善が効果的であることが分かっています。

そこで、NPO再チャレンジ東京では、全国の小中学校の道徳教育において、「食とこころの健康」の面からの指導を行っています。この国民運動として、いじめ防止のために、経験談や対策としての作文、分かりやすい標語、またポスターと缶バッジのデザインを募集しコンテストを行っています。毎年、小中校に出張して道徳教育を行っています。その一環を、本日も紹介いたします。



#平林朋紀

長野県佐久市出身。公明新聞1面コラム「北斗七星」を15年間執筆。NPO法人再チャレンジ東京、いじめ・自殺防止国民運動本部理事長。日本ペンクラブ会員。



東京都港区筈（こうがい）小学校での道徳教育（2024年1月）

◇ 茨木のり子との愛とカタチ

佐藤建吉

詩人は時間を自由に操る

詩人は空間を自由に旅する。

詩人は人の心を自由に引き出す。

詩人は言葉によってそれを表わす。

詩人は女にも男にも両方にもなれる。

詩人は美しい村も街も人と人の力もデザインできる。

しかし、この世では想いもよらない事が起こる。涙が出ることもある。それでも人々は、水道栓のように締め涙をこらえなければならない。個人の歳月は永遠ではない。急がなければならない現実もある。詩の世界を人のつながりで現実にし

なければならない。傍観するのではなく交歓する意志が欲しい。欲しいものは奪わなければならない。大事なことは対話すること。言葉のアヤと誤魔化すのではなくたとえ時代おくれと言われても、自分の感受性で、できあいの思想や宗教や学問や権威に頼るのではなく自分でそれを発見しなければならぬ。いまこそ、ヒマラヤを超える鶴のように、清冽に

羽ばたこう。平和と愛が棲む国を求めて。



#佐藤建吉（青柳浩生）

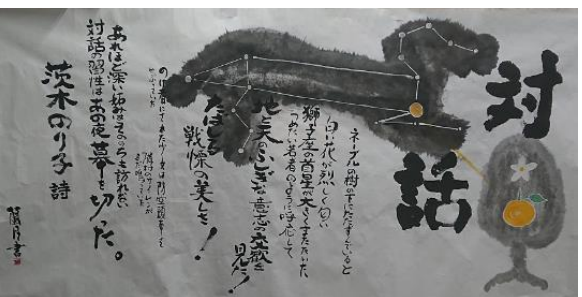
茨木のり子の夫、墓所のある鶴岡市出身。「金属疲労のメカニズム」で工学博士取得。その関連を、ソシオエンジニアとして地域活性化に応用。茨木のり子の行事活動もその一環。同時に社会を変える「できる状況づくり」を提唱し、「課題」を「チャレンジ」にする。一般社団法人洗楓座理事長&わがふるさと支援株式会社代表取締役、元千葉大学准教授。

性 #対話の習

茨木のり子『対話』から「獅子座の首星とネーブルの意志の交歓」を墨画として、上のよう

に書で表現。

（蘭月書）



(二) 茨木のり子の世界

◇ 朗読 榎木孝明



#榎木孝明
鹿児島県出身。武蔵野美術大学、劇団四季を経て、NHK朝ドラ「ロマンス」で主演デビュー。その後、映画・TV・舞台等で幅広く活躍中。また水彩画家、古武術家でもある。

わたしが一番きれいだったとき

わたしが一番きれいだったとき／街々はがらがら崩れて
いつて／とんでもないところから／青空なんかが見えたりした

わたしが一番きれいだったとき／まわりの人達が沢山死
んだ／工場で 海で 名もない島で／わたしはおしゃれ
のきつかけを落としてしまった

・・・

だから決めた できれば長生きすることに／年とって
から凄く美しい絵を描いた／フランスのルオー爺さん
のように
ね

汲む ―Y・Yに―

大人になるというのは／すれっからしになる
ことだと／思い込んでいた少女の頃／立
居振舞の美しい／発音の正確な／素敵な女
のひとに会いました

・・・

わたくしもかつてのあの人と同じくらいの
年になりました／たちかえり／今もときど
きその意味を／ひっそり汲むことがあるの
です

夏の声

いくじなしのむうちちゃん！／という声／しばしばと目覚
れば／時計は午前一時である／赤ん坊の泣き声は／ひよ
ひよ ひいひい／はかなく せつない／家の前の坂道を
／行ったり来たりして

・・・

むうちちゃんや！／いくじなしは いくじなしのままとい
いの／泣きたきや 泣けよ／意気地なしの勁さを貫くこ
とのほうが／この国では はるかに難しいんだから

行方不明の時間

人間には／行方不明の時間が必要です
なぜかはわからないけれど／

そんなふうに囁くものがあるのです
・・・

その折は／あらゆる約束ことも／すべては／チャラよ

存在

あなたは もしかしたら
存在しなかったのかもしれない
あなたという形をとって 何か
素敵な気がすうっと流れただけで

わたしも ほんとうは
存在していないのかもしれない
何かの在りげに
息などしてはいるけれども

ただ透明な気と気が
触れあっただけのような
それはそれでよかったような
いきものはすべてそうして消え失せてゆく
ような

◇ ピアノ 桜子

・ ・ ・ ・



#桜子

埼玉県出身。東京音楽大学ピアノ科卒業。
ピアニスト・作曲家・俳優・舞台企画演
出・施術家。埼玉県加須市観光大使。

寄りかからず

もはや／できあいの思想には寄りかかりたくない
もはや／できあいの宗教には寄りかかりたくない
もはや／できあいの学問には寄りかかりたくない
もはや／いかなる権威にも寄りかかりたくはない
ながく生きて／心底学んだのはそれぐらい
じぶんの耳目／じぶんの二本足のみで立っていて／なに
不都合のことやある

寄りかかるとすれば
それは
椅子の背もたれだけ

「やへ△」

ことしも生きて
さくらを見えています
ひとは生涯に
何回ぐらいさくらをみるのかしら
ものごころつくのが十歳ぐらいなら
どんなに多くても七十回ぐらい
三十回 四十回のひとつもさら
なんという少なさだろう
もつともつと多く見るような気がするのは
祖先の視覚も
まぎれこみ重なりあい霞だつせいでしょう
あでやかとも妖しとも不気味とも
掬えかねる花のいろ
さくらふぶきの下を ふららと歩けば
一瞬
名僧のごとくにわかるのです
死こそ常態
生はいとしき蜃気楼と

言いたくない言葉

心の底に 強い圧力をかけて／蔵ってある言葉／声に出
せば／文字に記せば／たちまちに色褪せるだろう
それによって／私が立つところのもの／それによって／
私が生かしめられているところの思念
・ ・ ・

その人の気圧のなかでしか／生きられぬ言葉もある
一本の蠟燭のように／熾烈に燃えろ 燃えつきろ／自分
勝手に／誰の眼にもふれずに



#茨木のり子2024

実施計画

春	2・17(土)	命日ははじまり
夏	6・15(土)	誕生日記念
秋	9・21(土)	ひろがり求めて
冬	12・21(土)	未来につなぐ

(三) エピローグ

・ ・ ・ ・

See you again

詩情遺韻

茨木のり子の世界

～2024 春～

「自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ」
朗読と音楽で蘇る詩文が私たちの いのちを救う



榎木 孝明 (俳優)



高谷 秀司 (雅楽師・ギタリスト)

2024年2月17日(土)

開場 17:30/開演 18:00/終演 20:00

会場：中目黒トライ 目黒区上目黒3-6-5 中目ビル5F
東急東横線 / 日比谷線 中目黒駅南口より徒歩2分

チケット：6,000円 (配信3,000円/アーカイブ2,500円) ご購入はQRコードより

主催：NPO法人再チャレンジ東京 共催：東京都 一般社団法人洗禮座



自分の感受性くらい

ばさばさに乾いてゆく心を／ひとのせいにはするな／みずから水やりを怠っておいで

気難しくなってきたのを／友人のせいにはするな／しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立つのを／近親のせいにはするな／なにもかも下手だったのは

わたくし

初心消えかかるのを／暮らしのせいにはするな／そもそもが ひよわな志しにすぎなかった

駄目なことの一切を／時代のせいにはするな／わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかものよ

朗読と音楽で蘇る「茨木のり子」 ～春夏秋冬/全4回シリーズ～

2月17日は、現代詩の長女といわれた茨木のり子の命日。数えて19回目。のり子は、自身が戦時中に青春時代を過ごして、その歳月を悔やみ、二度とそうした体験を次の時代の若者に負わせたくないで、多くの詩篇を書きました。その想いは「詩情遺韻」といえます。それを私たちは受け止めたいと思います。のり子の詩情は、文学としての理解だけでなく、いくつもの課題を抱えている、日本と日本人のここに記するものがあります。それを、このイベントでは、厚く表現します。(佐藤建吉/一般社団法人洗禮座 代表理事)

出演



榎木 孝明 (朗読)

鹿児島県出身。武蔵野美術大学、劇団四季を経て、NHK朝ドラ「ロマンス」で主演デビュー。その後、映画・TV・舞台等で幅広く活躍中。また水彩画家、古武術家でもある。



高谷 秀司 (朗読/即興演奏)
雅楽師・日本を代表するブルースギタリスト。年間公演数297本(2023年)。和と洋の具現化や、NPO法人再チャレンジ東京の企画室長として道徳教育を実践するなど、社会貢献に邁進している。



桜子 (朗読/即興演奏)

ピアニスト。作曲家・俳優・企画/演出・芸術家・ヨガ、瞑想講師としても活動中。埼玉県出身。埼玉県加須市観光大使。東京音楽大学卒業。

主催者によるイントロダクション (講話)

平林 朋紀
NPO法人再チャレンジ東京、いじめ・自殺防止国民運動本部理事。公明新聞一面コラム「北斗七星」を15年間執筆。日本ペンクラブ会員。

佐藤 建吉
一般社団法人洗禮座代表理事。ソシオエンジニアとして多分野で活動。山形県鶴岡市の出身で、茨木のり子に注力。その演出や企画は青柳浩生を名乗る。またNorikistと自称。

司会

朝日奈 拡美 (高谷秀司門下・古典朗詠家・朗読家)

主催：NPO法人再チャレンジ東京 共催：東京都 一般社団法人洗禮座

怒るときと許すとき

女がひとり
頬杖をついて

慣れない煙草をぶかぶかふかし
油断すればぼたぼた垂れる涙を

水道栓のように きっちり締め

男を許すべきか 怒るべきかについて

思いをめぐらせている

怒るときと許すときのタイミングが
うまく計れないことについて

まったく途方にくれていた

・
・
・

たったひとつわかつているのは
自分でそれを発見しなければならぬ
ということだった

対話

ネーブルの樹の下にたたずんでいると

白い花々が烈しく匂い

獅子座の首星が大きくまたいた
つめたい若者のように呼応して

地と天のふしぎな意志の交歓を見た！
たばしる戦慄の美しさ！

のけものにされた少女は防空頭巾を
かぶっていた 隣村のサイレンが
まだ鳴っていた

あれほど深い妬みはそののちも訪れない
対話の習性はあの夜 幕を切った。

歳月

真実を見きわめるのに／二十五年という
歳月は短かったでしょう

九十歳のあなたを想定してみる／八十歳
のわたしを想定してみる

どちらかがぼけて／どちらかが疲れはて
あるいは二人ともそうなる

わけもわからずに憎みあっている姿が／
ちらっとよぎる

あるいはまた／ふんわりとした翁と媼に
なっている

もう行きましよう と／互いに首を締め
ようとして／その力さえずる尻餅なんか
ついている姿

けれど／歳月だけではないでしょう
たった一日っきりの／稲妻のような真実
を／抱きしめて生き抜いている人もいま
すもの

行事開催のまとめ			
年月日	タイトル	会場	WEB
2024. 12. 21	茨木のり子2024冬		
2024. 9. 21	茨木のり子2024秋		
2024. 6. 15	茨木のり子2024夏		
2024. 2. 17	茨木のり子2024春	中目黒トライ	http://www.kofuza.com/html/images/noriko21flyer_facehttp://www.kofuza.com/html/images/noriko21flyer_back_rev.er612.pdf
2023. 6. 12	茨木のり子&金澤翔子 パーステ ー記念イベント」〜いま二人の 筆跡から学ぶこと〜	北とびあ（北区）	http://www.kofuza.com/html/images/flyer612.pdf
2022. 11. 23	茨木のり子2022冬／対話	日比谷図書文化館 小ホール（千代田区）	http://www.kofuza.com/html/images/noriko1123_face.pdf http://www.kofuza.com/html/images/norizawa_1117.pdf
2022. 11. 17	防災食を味わう『茨木のり子の献立帖』のメニューから	旧軽井沢公民館 大会議室&調理室	http://www.kofuza.com/html/images/karuizawa_1117.pdf
2022. 11. 6	日本語を味わうー茨木のり子の詩作を題材として	くっかけテラス（中軽井沢図書館）多目的室	http://www.kofuza.com/html/images/1106_face.pdf
2021. 12. 22	茨木のり子2121冬／歳月	日仏文化協会汐留ホール（港区）	http://www.kofuza.com/html/images/back_final.pdf http://www.kofuza.com/html/images/norev.png
2020. 10. 9	茨木のり子2020秋／怒るときと許すとき	東京ウイメンズプラザ（渋谷区）	http://www.kofuza.com/html/images/face_rev.png http://www.kofuza.com/html/images/bac
2019. 11. 9	茨木のり子2019秋／倚りからず	タワーホール船堀（江戸川区）	http://www.kofuza.com/html/images/funahori.pdf
2019. 11. 5	『寄りかからず』開催予告	荘内日報	https://www.facebook.com/groups/2518042215133523/posts/2556934047911006/

コラムなど			
2023. 3. 21	鶴岡と茨木のり子と鶴岡	文化通信第41回	http://www.kofuza.com/images/bunka_41_321.pdf
2022. 11. 22	茨木のり子の故郷／愛知県西尾市	文化通信第37回	http://www.kofuza.com/images/bunka_37_1122.pdf
2022. 2. 1	茨木のり子からみる男女平等参画／男女共同参画との関わり	茨木のり子六月の会、会報、第87号	http://www.kofuza.com/html/images/gatsu_2022.pdf https://www.facebook.com/photo?fbid=4901292996624154&set=pcb.3207516112582793
2020. 9. 14	「出来る状況づくり」と女性の力	文化通信第5回	http://www.kofuza.com/images/bunka_5_0914.pdf
2015. 1. 26	茨木のり子のメッセージ	新エネルギー新聞、第188号	http://www.kofuza.com/images/neu_18.pdf
フォトムービー（Youtube）			
2023. 6. 12	北とびあ 写真ダイジェスト版		https://www.youtube.com/watch?v=WkCYtNaqa_U
2022. 12. 29	茨木のり子2022秋／対話		https://www.youtube.com/watch?v=b8xNtpLW-eE
Facebookサイト			
2022. 11. 13	茨木のり子「言の実」の会		https://www.facebook.com/groups/1017829096275726
2019. 9. 16	江戸川茨木のり子の会		https://www.facebook.com/groups/2518042215133523

